

令和7年度 実践交流セミナー 渡島管内発表

多様性を認め合う社会教育
～“部活が変わる”から“放課後が変わる”へ～

渡島社会教育主事会
木古内町教育委員会 太田

木古内町の紹介①

- ・人口 3,404人(R8.1月末現在)
- ・面積 221.9km²
- ・学校 小学校1校／中学校1校



木古内町の紹介②



希少なほこだて和牛の

全国あか毛和牛の品評会にて
平成27年度
最優秀賞受賞

サーロインステーキ

ほこだて和牛

木古内町の高貴な畜産が育ったブランドあか毛和牛で年間出荷数はわずか220頭と希少です。頭毛、和牛との違いは、顔より赤身が優位であること。和牛特有のさしが舌下の方にも美味しく味わっていただける、大変上品な牛肉です。



北海道米
ふっくりんこ

北海道
木古内町

15kg
5kg×3袋



学校教育活動(小～中連携)



社会教育活動(自己肯定感の向上)

無名塾：

町の小学校3年生から中学校3年生までの児童・生徒を対象とした体験活動（月1回実施）



スノードーム作成体験

食品添加物を使ってスノードームを作成。身近な科学を体験。



地引き網体験

浜辺から沖合に仕掛けた大きな網の両端についた綱を人力で引っ張り、浜辺まで引き寄せて魚を捕獲する、日本の伝統的な沿岸漁法を体験。



冬アクティビティ

水上アクティビティで使うバナナボートを雪原を走行



社会教育活動のねらい



ひとづくり

地域の魅力・問題をよく理解し、
動くことのできる人材を育成する



地域づくり

さまざまな活動で人がつながり、
学び合うことでコミュニティが生ま
れ、地域のあるべき姿が見える



住民自治の仕組みづくり

地域団体の再組織化
→連携の取りやすい地域に
→地域課題を「共助」で解決

○ 渡島社会教育主事会研究テーマについて

：道主事会のメインテーマを受け、渡島主事会の研究テーマを設定

研究概要 (R6年度以降)

① 研究形態	1年目(R5年度) ・サブテーマ 「アフターコロナと社会教育」	・広いワードで設定し 「何が必要か・課題か」を検討 ・活動内容 ① しゅじトーク！！(意見徴収) ② 研修会(各市町／機関の事業視察)
	2～4年目(R6～8年度) ・サブテーマ 「1UPの渡島」	・R6：“多様性に応じた社会教育” ・R7：“多様性を認め合う社会教育” ・R8：
	5年目(R9年度)	・過去4年間の研究から結論を導き出す
② 研究期間	1年毎に見直し	



多様性を認め合う社会教育～渡島主事会～

障がい者の生涯学習に関する理解促進に向けたキャラバン隊 in 渡島

兼令和7年度第1回渡島管内社会教育主事会研修会

1.趣旨 渡島管内における社会教育主事等の資質の向上を図るとともに、有識者による講演や先行的な取組の発表を通して、障がい者の生涯学習の重要性について、地域の社会教育をはじめとした関係者の理解を促進することで、障がいの有無に関わらず誰もが共に生涯学習に取り組める社会を構築するための機運を醸成。

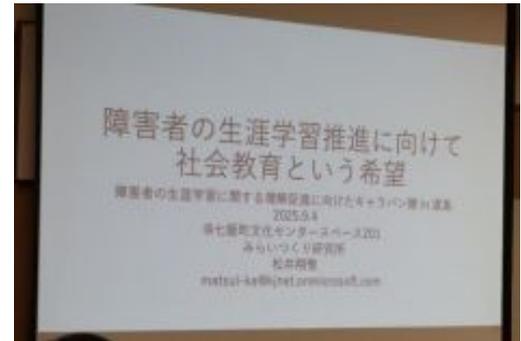
2.日時 令和7年9月4日

3.参加 13名

講義：「障がい者の生涯学習推進に向けて」

講師：医療法人稲生会 学びのディレクター 松井 翔惟 氏

「障害者の生涯学習推進に向けて 社会教育という希望」と題し、困難を抱える人々とともに、より良き社会をつくる取組である「**みらい大学**」の事業説明や、障がい者と健常者がともに学びを深める「読書会」や「オタクの語り場」など、様々な実践活動についての説明や紹介を受け、障がい者への学習機会の提供や学習支援の方法だけではなく、健常者と障がい者がともに学ぶことの重要性や障がいの有無に関わらず、個人として尊重することの必要性などについて講話。



協議:「障がい者の生涯学習の充実に向けた私たちの役割」

対象者への生涯学習に対する課題・配慮・解決方法を協議

- ・外見でわからない障がい者の方への対応に戸惑う
 - ・バリアフリーに対応していない施設での講座にて、他施設へ案内をするが、足が悪く行けない場合などの対応に苦慮
- 申込書の注釈などにおいて、配慮を要する事項を申告する欄を設けるなどの案 等



アンケートより①

2 障がい者の生涯学習を推進するにあたり、どんな課題があると思いますか。

よくわからない	0名
活動内容の充実に関すること	2名
活動の情報発信に関すること	4名
指導者や支援者に関すること	6名
一緒に取り組む仲間に関すること	3名
会場までの送迎サポートに関すること	3名
家族や身近な支援者の理解に関すること	3名
会場のバリアフリー等、施設・設備に関すること	4名
文字通訳、手話、点字、ノートテイクなどの情報保護に関すること	2名
医療的ケアに関すること	3名
その他	0名

アンケートより②

3 2の課題を解決するために、どのような取組が必要だと思いますか。

障がい者への対応方法や困りごとへの知識や対応方法を学ぶ取り組み。地域の民間職員に障がい者対応を教える取り組み

- ・障がい者が、生涯学習に取り組みたい可能性があることを、周囲の人々が理解する。
- ・生涯学習の行政担当者などは、障がい者に意図的に情報を届けるようにする。
- ・障がい者にサービスを提供するという意識を改め、一緒に考えるという意識をもつ。

専門性(知識)を高めることと、専門性をもつ協力者を得ること

事業の開催案内等によるサポート等の告知、障がい者の状態に合わせた開催場所の紹介

社会教育としての情報発信やコーディネートの仕方



多様性を認め合う社会教育～木古内町～

**木古内町での新規事業
～放課後クラブ(仮称)～**

当事業における「多様性」

部活や習い事をやっていない

習い事がない日は暇だ

今の環境だとやりたいことができない

様々な子どもたちの居場所
(多様性)

放課後クラブ

小中学生のための放課後クラブ キーコキッズ夢みるクラブ

たのしく、なかまとからだもうごかそう



無料体験会

参加者
募集

がんばらない運動クラス・「やりたい」を見つける放課後クラブ

体験会開催日時

2/25 水 3/4 水 11 水 18 水 25 水

15:30-17:00・事前申込み制

対象 小学1～6年生・中学1～3年生

場所 ファミリースポーツセンター

持ち物 運動ウェア・シューズ・飲み物・タオル

参加費 無料

活動内容
2月25日 いろいろな運動を楽しもう！
3月4日 パラリンピックにチャレンジ①～ポッチャ
3月11日 ボールを使った運動をやってみよう！
3月18日 パラリンピックにチャレンジ②～シットティングバレーボール
3月25日 春はもう目の前！外にとびだそう！

コーチ

彦井 浩孝（ひこい ひろたか）

健康科学ドクター（博士）

小学校教員免許

アイアンマントライアスロン47回完走

全日本空手道連盟公認二段

自然体験運動クラス指導経験

お申し込みはこちら

締切：各前回金曜日17時まで



放課後クラブ

「キーコキッズ夢みるクラブ」(仮称)

1.趣旨

放課後に様々な子どもたちが集まり、何か楽しい活動をする、活動を通して真剣にやってみたいことを見つけることを目的に実施。

2.実施期間

・試験実施 令和8年2月25日～3月25日(計4回)

・本格実施 令和8年4月～

3.内容

・試験実施 スポーツメイン

・本格実施 スポーツ&文科系の体験活動

主催 木古内町教育委員会 (担当：彦井) お問い合わせ

01392-2-2224

h-hikoi@kikonai.ed.jp

https://kikonai.ed.jp/

北海道十勝郡木古内町字木古内179番地1

部活動地域展開検討委員会から

- 令和7年6月より標題課題について、町内各関係者を集め検討委員会を立ち上げ。
- 令和8年度移行の方向性について検討、協議

改革推進期間

改革実行期間(前期)

令和5年

令和6年

令和7年

令和8年

令和9年

令和10年

現在木古内町でできること

～少年団～

バレーボール・陸上・柔道・空手・吹奏楽

～中学校部活動～

陸上(学校内)・吹奏楽(学校内)・バスケットボール(拠点校)・軟式野球(拠点校)

バレーボール(町外クラブ)

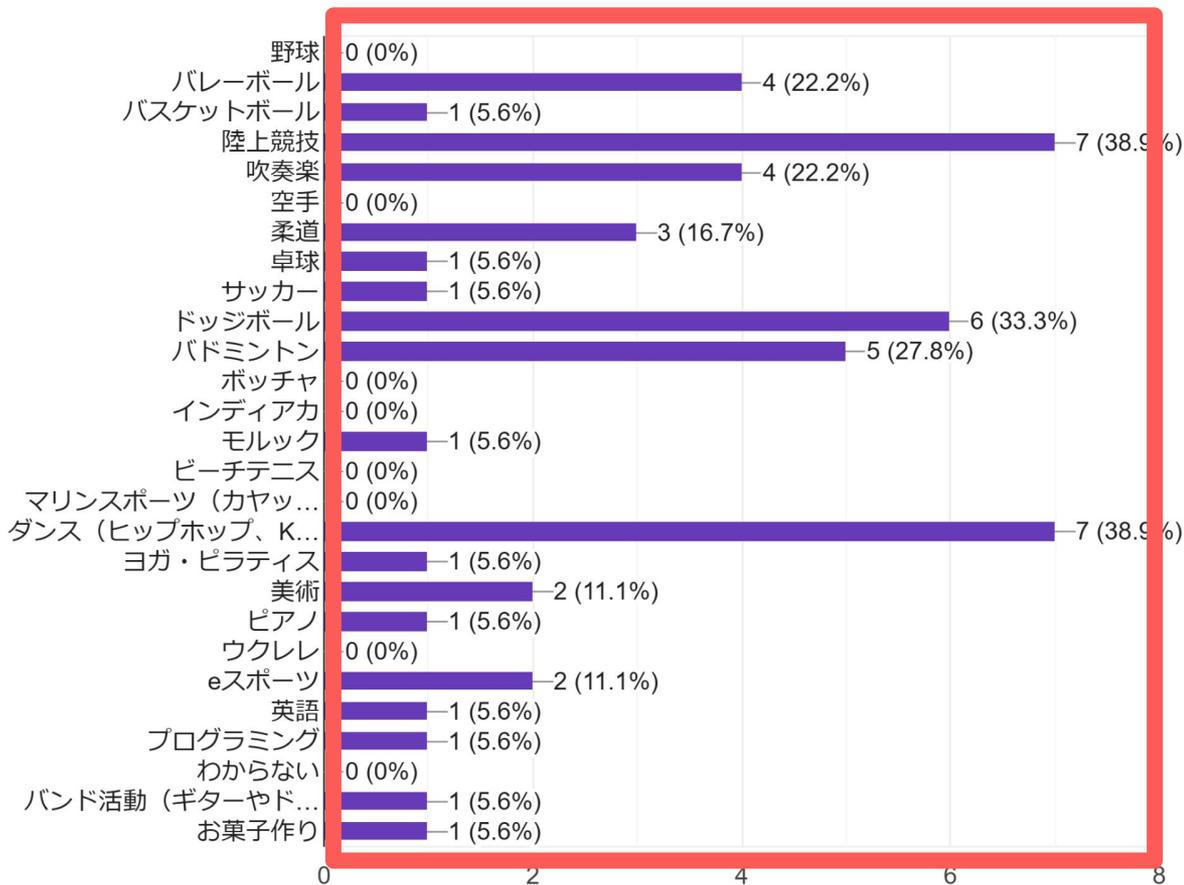


- ・子どもたちのやりたい選択肢が少ない
- ・何もやっていない子どもが多い

学校部活動の地域展開に関するアンケート結果※抜粋 【小学5・6年生】

問9. どんな活動に参加したいですか。5つまで選んでください。

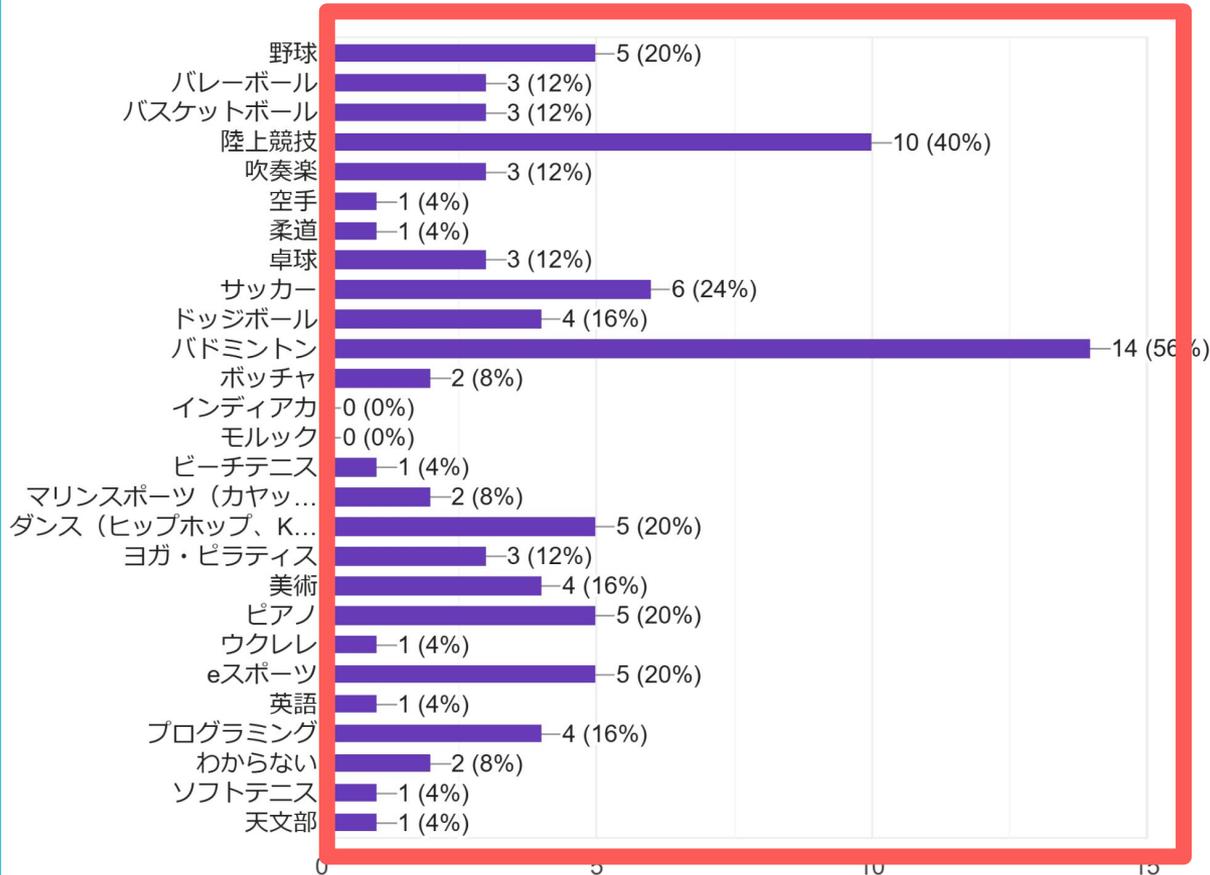
18件の回答



学校部活動の地域展開に関するアンケート結果※抜粋 【中学生】

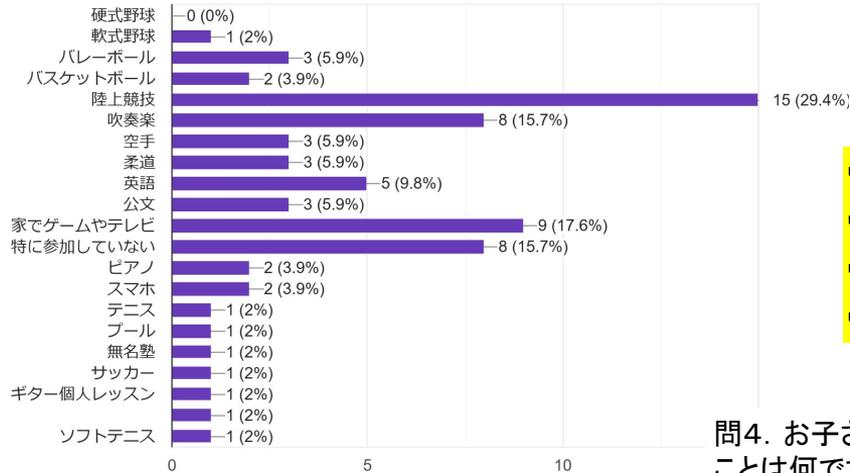
問9. どんな活動に参加したいですか。5つまで選んでください。

25件の回答



学校部活動の地域展開に関するアンケート結果※抜粋 【保護者】

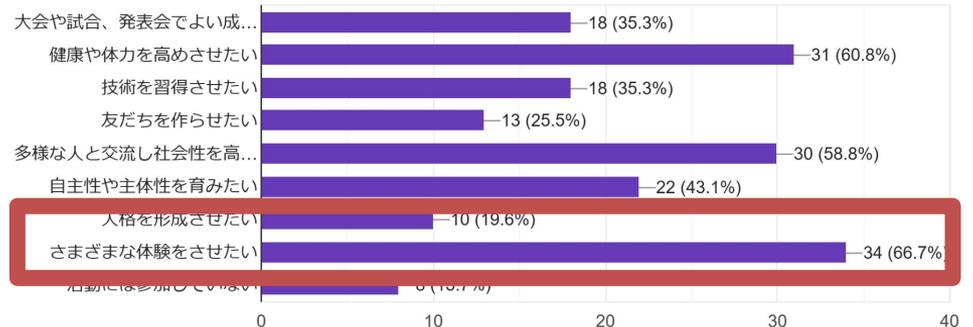
問3. お子さまは放課後や休日にどの活動に参加していますか。(複数選択可)



- ・「さまざまな体験をさせたい」
- ・「健康や体力を高めさせたい」
- ・「多様な人と交流し社会性を高めさせたい」
- ・「地元で何かをできるように」

問4. お子さまが放課後や休日に参加している活動に、保護者として期待していることは何ですか。(複数選択可)

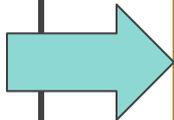
51件の回答





アンケートから

- 「子どもたちが放課後に何かできる環境」
「色々な体験」
- 部活の定義とは
- 移行も大切だが、まずは「放課後の学び場・居場所づくり」を先行してもいいのでは
- スポーツだけではなく文化活動の意欲もある
- 事業を通して地域との交流も図れないか



様々な子どもたちの居場所
(多様性)

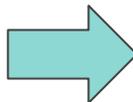


放課後クラブ



当町の社会教育の課題

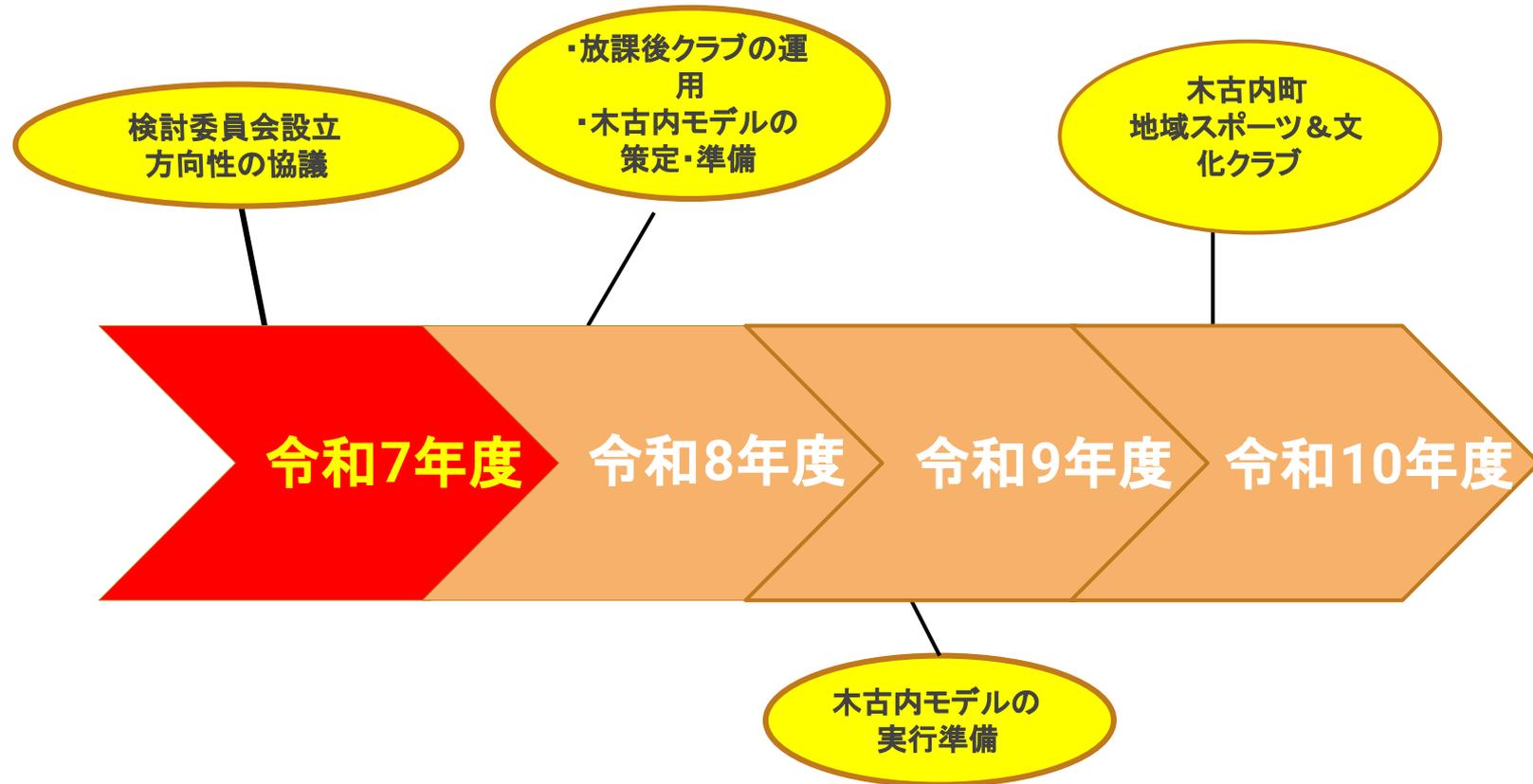
- ・スポーツ事業が不十分
- ・子どもの体験活動はあるが、単発(土日)になるため継続的な活動ができていない
- ・地域交流が少ない



放課後クラブの導入

- ・**スポーツ事業の充実**
- ・**継続的な活動による探求心、持続性の向上**
- ・**地域との交流機会**

将来的なビジョン





地域プロジェクトマネージャー制度

当町では令和6年度より実施しており、各種プロジェクトを遂行。

※人件費・活動費等特別交付税措置あり

令和6年度 CIO補佐官1名(R7年度より指導主事として職員採用)

令和7年度 地域 LPMとして1名

- ・防災教育フェス
- ・部活動地域展開
- ・放課後クラブ(仮称)



彦井浩孝(放課後クラブ主担当)

- ・令和7年6月就任
- ・神奈川県葉山氏から移住
- ・資格: 小学校教員免許、健康科学ドクター、
全日本空手道連盟公認二段、
自然体験運動クラス指導経験、
アイアンマントライアスロン47回完走 等
- ・備考: 様々な活動実績によるネットワークから
子どもたちへ多様な運動機会の提供を図る。



～どうなるかはまだわからない～

- ・公営塾の要素が強くなるかもしれない
- ・子どもたちの熱意 / 可能性
- ・放課後クラブ → 何でも事業になり、芯がぶれないか
- ・部活における送迎等の保護者負担
- ・現状の部活動の正式な移行 等

部活を変える前に放課後の概念を変えてみる



ご清聴ありがとうございました